

第4学年 音楽科学習指導案

は組 男子17名 女子17名 計34名
指導者 本田 康幸

1 題材 リズムで遊ぼうⅠ

教材 ◎「ブラジル」 バホーゾ 作曲

「いろんな木の実」 中山 知子作詞 西インド諸島民謡（本時主教材）

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに第3学年題材「リズムにのって」の学習で、リズムの特徴を基に、それにふさわしい音色の楽器を選んでリズムを工夫する活動を通して、リズム奏やリズム伴奏づくりをすることの楽しさを味わってきている。さらに子どもたちは、曲の感じに合ったリズム伴奏づくりをしたり様々な音色の楽器でリズムよく演奏したりしながら思いや意図をもって表現したいという欲求が高まってきている。

そこで、ここでは、曲想に合うようにリズムフレーズをつくったり様々な楽器を使用してリズムよく演奏したりする活動を通して、拍の流れを感じ取りながら自分がつくったリズムフレーズを演奏する能力を育てるとともに、リズムの組合せに関心をもって進んで表現・鑑賞しようとする意欲や、楽器の音色や様々なリズムを組み合わせることによって生まれる面白さを感じ取りながら、曲想に合うようなリズムフレーズを自分の思いや意図をもって表現を工夫する能力を高めることをねらいとして、本題材「リズムで遊ぼうⅠ」を設定した。

ここでの学習は、自分でつくったリズムフレーズを全体の響きや音量のバランスに気を付けながら、拍の流れを感じ取って演奏する能力を育てる第5学年題材「リズムで遊ぼうⅡ」の学習へと発展していくこととなる。

(2) 指導の基本的な立場

拍の流れを感じ取りながら自分がつくったリズムフレーズを演奏する能力を高めるためには、様々なリズムにふれさせたり、リズムをつくらせたりする活動を通して、曲想に合ったリズムフレーズや楽器の音色の組合せを工夫する楽しさを味わえるようにすることが効果的である。特にこの期の子どもたちには、目的に応じて歌と打楽器の組合せの表現形態を選んで学習を進めたり、友達と思いや意図を共有しながら表現したりすることを通して、拍の流れの中でリズムを工夫したり合わせたりする喜びを味わうことができるようにすることが大切である。

具体的には、まず、「ブラジル」を取り上げる。この楽曲は、ラテン音楽を代表するサンバのリズムを様々なラテン楽器が華やかに演奏する中、ゆったりとしたメロディーが流れていくという特徴があり、主なメロディーとリズム伴奏の組合せの面白さを感じ取らせることに適している。また、旋律の音の動きや歌詞を生かして、歌い方の工夫をすることもできる。そこで、ここでは、主な旋律の動きに合わせて体を動かす活動やリズム楽器が演奏するリズムフレーズの組合せを変えることを通して、リズムを感じ取ったり表現したりする楽しさを味わえるようにする。

次に、「いろんな木の実」を取り上げる。この楽曲は、ユーモラスな歌詞をリズムカルな曲調に合わせながら楽しく歌ったり楽器を演奏してリズム伴奏を入れたりすることができる。そこで、ここでは、曲想に合わせてそれぞれの楽器に合うリズムフレーズや楽器ごとの組合せ、バランスや音色を工夫しながらリズムよく演奏する楽しさを味わうことができるようにする。

このような学習を通して、子どもたちは、歌や伴奏に合わせて自分のつくったリズムフレーズを演奏したり、リズムフレーズの組合せを演奏し合ったりする楽しさを味わい、拍の流れを感じ取りながら表現したり鑑賞したりすることへの関心・意欲を高め、よりよい表現をつくり上げるために創造的に音楽とかがわっていかうとする態度を養うことができる。

(3) 子どもの実態（調査対象 4年は組 男子17名 女子17名 計34名）

本学級の子どもたちの実態は次の通りであった。

①	普段から拍の流れを感じ取って演奏することに気を付けていますか。
	はい(34) いいえ(0)
②	なぜそう考えるか理由を教えてください。(複数回答)
	・ずれると友だちと合わせられないから(12) ・歌がずれることなく歌えてきれいに聞こえるから(9) ・拍の流れに合わせないとリズムがくずれるから(7) ・リズムをとりやすくなるから(7) ・合っているとすっきりするから(5)
③	リズム模倣をする時、リズムよく演奏するためにどのようなことに気を付けていますか。(複数回答)
	【リズムよく演奏するための方法】 ・音をよく聴く(26) ・拍の流れに合わせて体を動かして聴く(6) ・速さや休み、(それぞれの音の)長さに気を付けて聴く(3) ・どのような長さが組み合わさっているかという組合せ(2) ・分からない(1)
④	教師のリズムを模倣して演奏しましょう。
	・拍の流れを感じ取って模倣することができる(31) ・拍の流れに合わせて模倣できない、また、リズムを誤ってとらえて演奏する(3)
⑤	8拍でリズムフレーズをつくりましょう。
	・つくって演奏することができる(28) ・つくることができない(6) その理由等：8拍を超える(5)、難しいと感じて止まってしまう(2)

①②から、全員が拍の流れを感じ取って演奏することが大切であると感じている。また、その理由として拍節的な中で演奏することで、自分の演奏を整理したり、友だちとタイミングよく合わせて演奏したりすることができるということを挙げている。さらに、拍の流れを感じ取ることがリズムよく演奏したり友だちと同じリズムや異なるリズムを合わせたりすることの容易さにつながることを理解している子どももいる。

③から、よく聴くことが大切で、リズム模倣をしやすいと答える子どもが多い。しかし、**どのような観点をもって聴くことがリズム模倣のしやすさにつながるかを自分なりに考えをもつことができている子どもが多いことが分かる。**一方、長さに気を付けることで音符の組合せを思考し、とらえたリズムを表現することが大切であると考えている子どもがいる。

④から、ほとんどの子どもがリズム模倣はできる。一方で間違ってしまったたり考えこんだりすることで演奏がとまり、拍の流れを無視して自分の速さで進めてしまったたりする子どももいた。

⑤から、意欲的にリズムフレーズをつくったりつくったものを演奏したりすることができる子どもが多い。一方で限られた拍の中で演奏するというきまりに沿って演奏できない子どももいる。

(4) 指導上の留意点

ア 課題把握・課題追求Ⅰの過程では、一定の間隔で繰り返されるリズムフレーズが、曲想に大きく関わっていることをとらえられるように、教材曲と既習教材とを比較鑑賞する活動を通して、繰り返されているリズムフレーズやリズム伴奏を見つけ、そのリズムがあることで、**どのような思いをもつかを表現しながら話し合う場を設定する。**また、見出したリズムフレーズを繰り返し表現することができるように、音符カードや休符カードで表し、それぞれのワークシートに記録する活動を設定する。

イ 課題追求Ⅱの過程では、曲想に合わせて思いや意図をもってリズム伴奏づくりを進められるように、旋律のリズムとリズム伴奏とを対比させ、**どのような組合せにしていくなワークシートにまとめられるようにする。**また、使用する楽器の奏法や音量のバランスを確かめながら表現できるように、**ペアやグループで互いに聴き合う場を設定する。**

ウ まとめの過程では、表現した結果だけでなく、そこに至るまでの考え方や学習の進め方についても振り返る場を設定し、自己の高まりを実感させるとともに、新たな学習への問題意識をもつことができるようにする。

3 目 標

- (1) リズムの組合せに関心をもち、拍の流れを感じ取りながら表現できているかを振り返りながら進んで音楽活動に取り組むことができる。
- (2) 自分の好きなリズムフレーズで、楽器の組合せを工夫したり曲想を生かしたりリズム伴奏を工夫したりすることができる。
- (3) 拍の流れを感じ取りながらリズムフレーズやリズム伴奏を演奏したり歌と合わせたりすることができる。

4 指導計画（全6時間）

過程	思いや意図を連続・発展させる心の高まり	教材	主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
課題把握	なんだかわくわくするぞ。	ブラジル①②	リズムや楽器の音色に気を付けてきこう。	○ イメージをふくらませることができるようにするために、リオのカーニバルの写真を見せるようにする。 ○ 子どもたちがサンバの雰囲気味わうことができるように、ラテン楽器と和楽器の音色の比較活動を取り入れる。 ○ サンバのリズムに親しむことができるように、体全体や一部分を揺らすなど体を動かす活動を取り入れる。
課題追求Ⅰ	主なメロディーとリズム伴奏が大きくちがうな。 サンバをきくとわくわくするのは、このリズムがあるからなのだな。 この歌にもリズム伴奏をいれてみたいな。		拍の流れを感じ取りながら、サンバのリズムをえんそうしよう。 ○ 「ばんそう」の範奏を聴き、演奏している楽器の音色やリズムについて話し合う。 ○ グループで役割を決め、練習する。 ○ グループごとに発表する。	
課題追求Ⅱ	どのようなリズム伴奏にしたらいいだろう。 歌とリズム伴奏を合わせて演奏してみたいな。 使っている楽器のえんそうの仕方や組合せを見直してみよう。 思っていたのとちがってタイミングや音の大きさがあわないな。 自分たちの目指していたような曲の感じに近付いたぞ。	いろんな木の実③④⑤⑥	リズムにのってえんそうしよう。 ○ 「いろんな木の実」を聴き、曲の感じについて話し合う。 ○ 主な旋律のリズムを音符や休符カードを使用して表して歌う。 リズムばんそうをつくろう。 ○ 主な旋律に合わせたリズム伴奏をつくる。 ○ 自分たちがつくっているリズム伴奏に合うような楽器を選ぶ。 ○ 相互発表・鑑賞を行う。 リズムばんそうと歌を合わせてえんそうしよう。（本時） ○ さらに工夫することを話し合う。 ○ 発表での反省を基に、さらに練り上げる。 ・ 歌と合わせる ・ 楽器だけで演奏 ○ ワークシートに記録している自分たちの考えを伝えながら発表する。 ○ 相互発表・鑑賞する。 グループ合そうの最終発表をしよう。 ○ 中間発表で友達からもらったアドバイスをもとに最終的な確認をしながら演奏をする。 ○ 相互発表・鑑賞する。 ○ 学習のまとめをする。	○ 拍の流れの中で音符や休符がどのように構成されているかとらえられるように、音符カードや休符カードを使用して可視化して操作をする活動を設定する。 ○ 題材内の学習のつながりをもたせることができるように、リズム伴奏無しの範唱を聞く活動を取り入れる。 ○ 主な旋律との比較でどのようなリズム伴奏にするかを決めさせ、同質の課題をたてた子どもたちでグループをつくらせる。 ○ いろいろな楽器の組合せを工夫できるようにするために、リズム伴奏の楽器については、これまでの学習で使ったものを取り入れてもよいことを伝える。 ○ アドバイスをしやすいように、また、表現の高まりをねらった発表となるように、発表前に現在課題としていることを伝えさせ、その解決策について友達から意見をもらう活動を設定する。 ○ 最終発表に向けて、自分たちの演奏が友達のアドバイスをもとに、どのように変わったか述べられるようにさせておく。 ○ 自分や友達の高まりを振り返ることができるようにするために、なぜ学習に一生懸命取り組めたのかということや、自分や友達が工夫したこと、技能が高まったことなどについて、学習カードで振り返らせるようにする。
まとめ				

5 本 時 (5 / 6)

(1) 目 標

使用する楽器の響きやリズム伴奏に関心をもち、歌との音量のバランスや楽器の奏法が意図した表現になっているか確かめながら進んで音楽活動に取り組むことができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時では、方向性の決定を目的にした学び合いが重要であると考え。そこで、つくったリズム伴奏を相互に発表する際に、ワークシートや口頭での説明で、課題としていることを聴く側に伝えさせる。そして、目指す演奏に近付くための意見交換や試行による繰り上げができるように、うまくいっている時や課題が解決されていない時の助言の仕方や奏法の確認ができる資料を提示し活用できるようにする。

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
課題把握	1 前時の学習を振り返り本時の学習について話し合う。 ・ リズム伴奏をつくったね。 ・ 歌と合わせてみたいな。	(分) 7	○ よりよい演奏を目指そうとする意欲をもつことができるように、楽器の変更やリズムの変更は柔軟に行っていくことについて話し合う。
課題追求	2 本時の学習について話し合う。 リズムばんそうと歌を合わせてえんそうしよう。		○ 歌とのバランスを考慮して演奏することができるように、バランスがとれていない範奏とほどよいバランスの範奏とを聴く活動を設定する。
表現の工夫	3 つくったリズム伴奏の練り上げを行う。 音が目立つようにこの楽器を選んだけれどもどうしても大きな音になりすぎているなあ。 細かいリズムだとうるさい感じになるから音を出す回数を少なくしてゆったりしたリズムにしてみたらどうかな。	28	○ 思いや意図を明確にできるように、主な旋律とリズム伴奏の関係をまとめたワークシートを活用させる。 ○ リズムフレーズを記録できるよう、活動中に操作するリズムカードを準備しておき、操作しながら見直しをしたりワークシートに書き込んだりすることができるようにする。
相互発表・鑑賞	4 グループごとに演奏をし、演奏について振り返りをする。 さっきアドバイスをもらった通り、ゆったりしたリズムだと歌と合わせても大丈夫そうだ。 よくなってきたね。自分のリズムも少しゆったりしたものに変わるとそろって聞こえてくるかもなあ。		○ 前時で決めた目指す演奏について振り返ることができるように、ペアやグループで設定しているリズムや音の大きさについて、聴き合う活動を取り入れる。
	5 新たに変更したりグループ演奏で得たりしたことをワークシートにまとめ、個人やグループで再試行する。 自分たちのグループでも、前奏を入れたら出だしがそろってもっと合うようになるからやってみよう。		○ 課題を解決しながら演奏に取り組むことができるように、助言の仕方や奏法の確認ができる資料を掲示しておき、「どの方法が解決のためにはいいと思うかな。」と発問する。
まとめ	6 グループで学習のまとめをし、次時への見通しをもつ。 ・ みんなからもらったアドバイスを基にしたらいい演奏になってきた。 ・ 次は、発表だからそこまでに、今日の学習を生かしていきたいな。	10	○ 最終発表にむけて練り上げの進め方を明確にできるように、グループで変更したことを演奏しながら話し合うことができるようにする。 ○ 最終発表に向けて、自分たちの演奏が友達のアドバイスをもとに、どのように変わったか述べられるようにさせておく。